

第3学年1組 社会科学習指導案

3年1組教室 指導者 永谷 剛

1 単元名 18歳からの選挙権（現代の民主政治）

2 単元の目標

- (1) 身近な生活と政治とのかかわりに関心を持ち、政党の役割や選挙のしくみや課題について意欲的に追究することができる。
- (2) 18歳から投票権が与えられることについて、多面的・多角的に考察し、政治参加について自分の考えをもつことができる。
- (3) 18歳から投票できる理由について資料集、年表などの適切な資料を用いて調べることができる。
- (4) 選挙権の年齢が引き下げられてきた過程をつかむことで、現在の日本の投票率の低下の状況・理由をつかみ、現在の選挙のしくみ、課題を理解する。

3 単元の構想

(1) 生徒にかける教師の願い

3年生はここまでプリント学習を中心に進めてきた。そのため一問一答式の問いにはすぐに答えることができる。教科書や資料集から探し、答えようとする意欲も高い。しかし答えを言ってしまった時点でその問いには関心がなくなってしまう。選挙権が18歳以上になったときでも、「高校生でも投票できるんだ。いいね。どんどん若くすればいいのに。」という反応であった。自分の意思表示はできるものの、自分の意見については既存の知識から思いついたことを述べるだけであって、根拠をもって答えることはできない。

抽出生Aも、思いついたことをすぐに発表することはできるが、どの資料をもとにしてまで考えることはできない。資料のどの部分からこう考えるというように、根拠をもって話すことができ、政治に関心をもって生活していくようになってほしい。

(2) 教材について

本教材は、日本の選挙権について考える。日本の若者の政治離れが進むといわれる中、日本は18歳に選挙権が引き下げられることが決まった。中学校3年生の彼らにとって、3年後の近い将来のことになった。選挙権を18歳に引き下げることで投票率の低下が止まるのではないかと考えられている。また世界に基準を合わせる、若者に政治に関心をもってもらいたいなどの理由がある。そうした理由について調べ、調べた内容を発表しあうことで、政治への関心が高まるであろう。調べていく中で生徒は政治について多面的・多角的に物事を見つめるきっかけとなるはずである。しかし18、19歳に選挙権があたえられても増加は全体の2%に過ぎない。年齢引き下げがすぐに投票率増加になるのかは疑問である。ならば18歳で投票権が得られる前に自分たちは何をすべきかを考えさせたい。これからの自分たちが政治とどうかかわっていくか、選挙権が得られるまでに何を学んでおくのかを考えることができるであろう。

(3) 単元について

つかむ段階では、日本の政治や選挙のしくみについて知る。今年日本の選挙権の年齢は70年ぶりに引き下げられた。この事実を紹介し、自分たちにとって選挙が近くなったことを感じる。

深める段階では、近い将来に与えられる選挙権について、まず自分たちが投票するとき何に気をつけて投票するかを考えるために模擬選挙を行う。見た目ではなく政策等の中身について考えなくてはいけないことを学ぶ。また自分の身の回りで聞き取りを行う。実際に投票したときの理由や高校生には選挙権についてのインタビューを行い、選挙に対する課題などをつかむとともに、自分たちが18歳になった時どうしたらいいのか自分の考えを広げていく。そしてなぜ18歳に引き下げられたのか理由を調べる。文献資料、インターネット、資料集を用いて、調べをすすめる。調べた内容をもとになぜ引き下げられたのか自分の考えをもち、全体での話し合いを行う。互いの視点から意見が出され、日本政府の選挙に対する狙いが理解できるようになるであろう。

生かす段階では、選挙権の年齢が引き下げられることを学ぶことで、生徒は政治へ関心を深めていくであろう。政治について調べていく中で、多面的・多角的な考えをもつことができるようになってほしい。そして近い将来自分の考えをもって投票できる人になってほしいと思う。

4 単元構想図 (12時間完了、本時10/12)

教師の支援

日本の選挙のしくみについて知ろう (4)

- 日本の選挙のしくみについて知ろう。
日本は民主主義で、議会制民主主義を行っているよ。
国民一人一人が政治の主役だって、どうやって参加するのかな。
日本政治はどうやって行われているのかな。
- 政党の役割について知ろう。

つかむ

政党が国民と議会を結び付けているんだね。
政党ごとに公約が違うね、政権公約を読んでみたい、調べてみたいね。
選挙で選ぶんだよね、選挙ってどうやってやるんだろう。

- 日本の選挙について考えよう。
日本の選挙のしくみがわかった。4原則あるんだ。
選挙制度も知ったよ。衆議院と参議院で違うね。
若者は選挙に行かないのかな。投票すればいいのに。
投票年齢が18歳に下がることが決まった。どうしてだろう。

僕たちも高校生になったら投票できる、でも不安だな

どうして投票年齢が下がったのだろう (7)

- 模擬選挙を行ってみよう。
声が一番大きい人を選んでしまった。
候補者の見かけで選んでしまった、もっと話の中身をきかないといけない。
投票するのも難しいな。

深める

- 高校生や家の人に選挙について話を聞いてみよう。
投票に行かなかったこともあったって。
投票しないと何か罰があるのかな。
投票しない理由を聞いてみよう。
選挙に関心がない。
仕事が忙しかったから。
私一人が投票してもしなくてもいっしょだから。政治は何も変わらない。

- 日本の選挙の問題点をつかもう。
若者の投票率を上げなくてはいけないんだな。
一部の人だけで政治の内容が決まってしまうんじゃないか。高齢者は投票率が高いね。高齢者重視の政治になっていないだろうか。
若者が政治に関心がないのに、年齢を引き下げても大丈夫なんだろうか。

- 選挙に関心をもてるように投票率などは西尾市のものを用意する。
- 各自が資料を選択して読み取れるよう、選挙に関する資料を多数用意する。
- 18歳の選挙権について新聞記事を用意し、生徒に配布をする。
- 高校生から選挙ができることを理解し、自分だったらどうなるだろうか、切実感をもたせる。

- 選挙の時にどのようなことに気をつけるべきか考えさせるために模擬選挙を行う。
- 模擬選挙は「西尾の市長選挙」という事で行う。
- 家庭でも選挙への参加、不参加、その理由についてなるべく多く聞きとらせる。選挙への参加の様子をつかませる。
- 愛知県選挙管理委員会に依頼して、愛知県、西尾市の投票状況の資料を用意する。

※若者の投票率が低い理由について抽出生Aには、資料をもとに自分の考えをもたせる。

なぜ18歳から投票を認めたのか、その理由を考えよう
(本時)

- ・自分の考えを決め、証拠を見つけよう。文献や資料集、インターネットで調べてみよう。
- ・自分の意見をまとめ、理由を話し合おう。

【政策面から】

どうせ変わらないから投票に行かないという考えが多い。でも将来の日本を作るのは若者の仕事、財政についても考えたい。

【外国と基準を合わせる】

外国のほとんどは18歳からだよね。18歳だと何か問題とかあるのかな。高校生が投票することに不安はないのかな。

【投票率を上げるため】

若者に選挙権が与えられたら投票に行く人は増えるよね。でも有権者全体2%だけだから、あまり変わらないかも。

【財政に対して】

高齢者の投票率が高く、若者の意見が反映されていないと思う。年金問題など若者こそ本気で取り組まないといけないな。

【被選挙権は変わらない】

投票はできるけれど、立候補できなかつたら、実際に政治は変わらないような気がする。立候補できないかな。

【18歳でいいのかな】

高校生にそれだけの判断する力があるのかな。税金も納めていないって不満がある人もいるみたいだよ。

- ・自分たちの選挙に対する心構えを考えよう。

選挙に行くことが大切だということが第一歩、自分たちに選挙権が与えられたら絶対に投票に行こう。

これからの政治に対して自分たちの意見を打ち出すべきだ。日本の将来について本気で考えたい。

- ・様々な資料を入手できるように、CP室のパソコンや図書室を利用する時間を確保する。

- ・小グループ活動を取り入れ、意見を出しやすくするため生徒同士の意見交流の場を多く設定する。

※抽出生Aが自信をもって発表ができるように、対話や朱書きを繰り返し行い支援する。

- ・理由だけでなく、疑問に思ったことについても調べていくようにする。

- ・多くの視点から意見が出るように、出てきた意見を座席表に落として活用する。

- ・調べた根拠をもとに分かりやすく伝えられるように、資料を電子黒板で掲示して発表を行うようにする

政治に参加していく僕たちは(1)

- ・政治参加する方法を知ろう。

選挙の投票以外に何ができるのかな。手伝いかな？

インターネットで情報収集したり意見を発表する。

政党活動への参加もできるのかな。

議員へ請願や陳情することもできるよね。

今のうちから選挙について学び、政治について本気で考えることのできる18歳になりたい。

生かす

- ・自分たちができる政治参加について考え、実際に行動できるように具体的に考える。

18歳からの選挙権がもらえる若者として、今以上に政治に関心をもち、これから政治に参加していこうとする抽出生A

5 本時の学習（本時 10 / 12）

(1) 目標

- ・調べた資料をもとに、18歳からの選挙権について自分の意見を発表することができる。
- ・話し合いを通して、互いの意見を理解し、若者の投票率の向上について考え、政治に参加していこうとする思いをもつことができる。

(2) 過程

1 本時の課題を確認する（5分）

- 18歳の選挙権についての新聞記事を提示し、確認する。
- 自分の考えを確認する。

2 なぜ18歳から投票を認めたのか、その理由を考えよう。（40分）

○課題について全体で話し合いをする。

【若者に意見を】

高齢化が進み、若者よりも高齢者の投票率が高い。日本が「シルバー民主主義」になったといわれて久しい。高齢者の声は政治に反映されやすいが、若者の意見も取り入れなければ、少子化対策や財政再建を含む将来を見据えた国づくりはうまく進まないから。

【政治力UP】

来年夏の参院選から、高校3年生の一部を含む18、19歳の若者およそ240万人が新たな有権者となる。若者に魅力ある選択肢を示せるか現在の政治家の力量が上がり、魅力ある政治につながっていくと思う。そうすれば若者も投票するはずだから。

【投票率を上げる】

若者に選挙権だけでは投票に行かないと思う。もっと政治に関心をもたせることも大切だと思う。若者の投票率を上げるためには政策からも考えたい。

【世界は18歳】

世界の有権者も18歳からが当たり前である。でも政治に意見が反映されるのが遅いのはどこの国でも課題であるみたい。意見を出すだけでなく実現させるまで考えなくてはいけないね。

- 小グループで、18歳になるまでに何をしたらいいのか話し合う。
- ・小グループで話し合い、出た意見を全体で発表する。

3 本時の学びを振り返ろう（5分）

- 課題について自分の考えをまとめる。
- ・自分の考えをまとめるとともに、18歳からの選挙権についての感想を書く。

(3) 評価

- ・話し合いを通して、それぞれの意見を発表し、互いの意見を理解し、日本の政治の課題や仕組みについて考えを深めることができたか。（ワークシート、話し合いの様子、発言）

教師のはたらきかけ

- ・ワークシートを用いて日本の選挙制度を理解し、共通の押さええとする。

- ・自分の考えをもち、そのもととなる資料を各自用意する。

※抽出生Aには自信をもって発表できるように、朱書き対話で支援する。また資料選定などでの助言をする、

- ・18歳の選挙権についてメリット・デメリットがわかるように板書の構成を工夫する。

- ・小グループで役割分担をして発表をする。その内容についてメモをとったり、質問をしたりする。

- ・小グループの話し合いを円滑に進めるために司会者をたてる。そして出てきた意見を発表してもらう。

- ・これからの政治についてどうかかわっていくのかという視点で振り返りをする。